

アーカイブ Data Report NO. 55

(2020年10月19日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル5F
E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

デジタルアーカイブと e-learning の連携活用（1） ～遠隔教育での主体的な学びと学修支援のために～

齋藤 陽子、後藤忠彦（岐阜女子大学）

新型コロナウイルスの感染拡大のため、多くの学校、企業等で、教育、生涯学習などに広く遠隔教育の活用が始まり、その実践の結果として、各種の問題点が指摘されるようになってきた。そこで用いられる e-learning の活用の主体的な学びの課題解決の学修支援について考える。

1. 授業の形態について

たとえば、教師と学習者の目線の不一致、受講者間のコミュニケーション、他の人の考え、意見等の情報不足といった授業形態についての課題や、主体的な学びの環境、学習情報環境（たとえば、図書館等の利用、各種資料の活用）などの情報環境の課題が出された。

学習形態については2000年頃の遠隔教育で多様な検討がなされた。たとえば、衛星放送とテレビ会議システムを用いて全国の関係大学の教員により、岐阜女子大学文化情報研究センターで多様な授業形態を用いて実践研究がなされた。

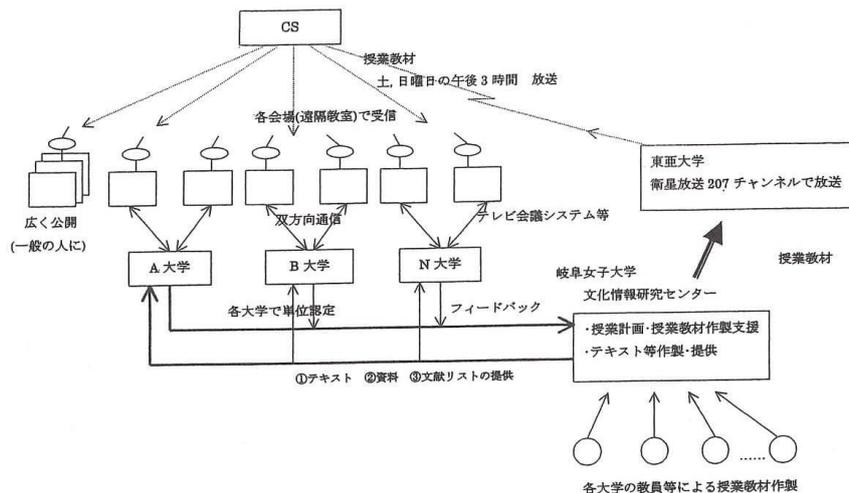


図1 衛星放送、テレビ会議システムを用いた遠隔教育

遠隔教育での授業形態としては講義方式から実習まで次のような授業形態で構成されていた。

- ①講義方式……授業・講義を映像記録し、遠隔（衛星放送）を使い提供
- ②対談方式……受講者に代わって各種の視点から質問…映像記録提供

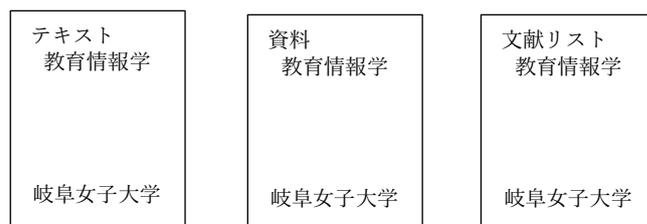
- ③討論方式……実践担当者を含め、実施上の課題についての討論の映像記録提供
- ④学生参加方式……学生への質問・応答、実習等の指示と活動を映像記録・提供
- ⑤実習（演習含む）……実習の状況を映像・記録提供
- ⑥ニュースキャスター方式……講師と2～3人の専門家による
- ⑦その他

これらの授業の形態を教育内容と流れの中で最も良い方法を選び構成していた。e-learningでも活用でき、現在、岐阜女子大学では、各授業方式を適用しe-learningの教材開発を進めている。

後藤忠彦, 谷口知司, 生田孝至, 加藤直樹, 村瀬康一郎, 松下文夫, 中村紘司, 有園格, 衛星放送 (CS) とテレビ会議システムを用いた遠隔教育の開発 (1) .教育情報研究,2000,vol.16, no2,p.31-38)

2. 学修関係情報の提供

遠隔教育で、もう一つの課題としては、図書館で調べたり、資料の調査等が困難なことである。学習情報環境の整備が必要となっている。この情報環境の必要性は木田宏先生（元文部事務次官、国立教育研究所長）の指摘があり、①テキスト ②資料（参考資料） ③論文等リスト（発展的な学びを支援するため）3種類の冊子を提供した。（各100～200頁）



3. e-learningの学修に学習環境としてデジタルアーカイブの活用

岐阜女子大学は、2010年から沖縄サテライト校を設置し、e-learningの活用を進めてきた。その経験から次のような課題が出されてきた。

遠隔教育での欠点として、学習環境の問題が昔からあり、その対策として、テキスト、参考資料、論文リスト等の印刷物やDVDの提供がされてきた。

このような**参考資料（学修支援資料）**や**主体的な学びを支援する資料**を、**デジタルアーカイブ**を使い、いかに**e-learning**でそれぞれの場所で利用できるようにするかが問われている。

とくに、デジタルアーカイブは、世界的なデジタルコンテンツの流通を図るポータルを設置、関係機関や地域コミュニティなどのコンテンツの整備を進めるハブ等の設置が進みだし、その中から、学びに必要な学習情報環境の構成が可能になりだした。

